

## 乳癌、自己検診、自己認識、スクリーニング .....1

乳癌は女性において発現頻度が最も高い癌で、女性の死亡原因の2番目の癌である。40～49歳の女性にマンモグラフィをルーチンに提供すべきではないという勧告に議論が沸き起こっている。ACOGなどは40歳からのマンモグラフィによるスクリーニングの有用性はデメリットを凌ぐと結論付けている。乳癌の自己検診に伴って、良性疾患のために生検を行う頻度が上昇したが、乳癌による死亡率は低下しなかった。アメリカ予防医療作業部会では自己検診はカテゴリーDに相当するもので、メリットよりもデメリットが優り自己検診を破棄するよう勧告した。

アメリカ癌学会は女性に乳房の変化を検知する能力を高めることなく自己検診を勧めた場合問題が生ずる可能性があるという危惧を表明した。乳癌の自己検診を中止するという勧告は乳房の自己認識という新たな考えを生み出すことになった。Markらは乳房の自己検診と乳房の自己認識という考えがケア提供者と女性のいずれにも混乱を引き起こしていると述べている。乳癌の自己検診の方法を教えたり、定期的に乳房の自己検診を行うことはもはや試みられるべきではないという結果が得られている。

Separating the Baby From the Bath Water: Breast Self-Awareness and Breast Self-Examination

Mark D. Pearlman

Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):731-733

【文献番号】g09300 (婦人科腫瘍、家族性腫瘍、癌遺伝子、遺伝カウンセリング、予防的摘出手術、スクリーニング)

## 乳癌、自己検診、乳房自己認識 .....3

乳癌は女性において最もよく認められる悪性腫瘍である。当初、乳癌の自己検診が勧められ、それによって早期に乳癌を検知し生存率を向上させることができるのではないかと考えられていた。その後乳癌の自己検診は乳癌による死亡率に影響を与えることはないということが確認された。しかし、乳癌の自己検診を破棄するよりもそれを乳房に関する自己認識を高めるという新たな概念の中に組み入れられるようになった癌を自ら検知するという女性の能力を高めたいとする考えは素晴らしいが、効果的ではないとする方法をあえて教えることは有害無益である。

Breast Self-Awareness: The Evidence Behind the Euphemism

Katrina Mark, Sarah M. Temkin, Mishka Terplan

Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):734-736

【文献番号】g09300 (婦人科腫瘍、家族性腫瘍、癌遺伝子、遺伝カウンセリング、予防的摘出手術、スクリーニング)

## LGA、発現頻度、リスク因子、肥満、妊婦、体重増加、妊娠糖尿病 .....4

過体重や肥満、過剰な妊娠中の体重増加および妊娠糖尿病などはすべてLGAのリスクと関連した。妊娠中の過剰な体重増加を阻止することによってLGAのリスクの抑制率は最も高いという結果が得られた。

Association of Maternal Body Mass Index, Excessive Weight Gain, and Gestational Diabetes Mellitus With Large-for-Gestational-Age Births

Shin Y. Kim, Andrea J. Sharma, William Sappenfield, Hoyt G. Wilson, Hamisu M. Salihu

Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):737-744

【文献番号】o01400 (SGA、LGA、IUGR、IUFD、FGR)

## 子宮鏡下手術、細切法、電気切除術、受容度、疼痛、手術時間 .....7

子宮鏡下で子宮内膜ポリープを切除する際に電気切除法と比較しhysteroscopic morcellation deviseを用いた細切法の方が時間が短く、疼痛のレベルは低く、患者にとっての受容度も高く、完全切除の割合も高いという結果が得られた。

Hysteroscopic Morcellation Compared With Electrical Resection of Endometrial Polyps: A Randomized Controlled Trial

Paul P. Smith, Lee J. Middleton, Mary Connor, T. Justin Clark

Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):745-751

【文献番号】g02200 (子宮内膜炎、子宮内膜ポリープ)

## 頸部異形成、LEEP、早産、リスク因子 .....9

LEEPの既往のある女性は頸部異形成の既往はあるも頸管切除を受けていない女性と比較し早産のリスクに差がないことが確認された。早産と頸部異形成に対する共通のリスク因子の存在がLEEPと早産の間の関係を説明することができるのではないかとと思われるが、LEEPそのものは早産の独立したリスク因子ではない可能性がある。

Loop Electrosurgical Excision Procedure and Risk of Preterm Birth: A Systematic Review and Meta-analysis

Shayna N. Conner, Heather A. Frey, Alison G. Cahill, George A. Macones, Graham A. Colditz, Methodius G. Tuuli

Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):752-761

【文献番号】o01300 (早産、切迫早産、子宮収縮抑制、診断、治療、リスク因子、モニタリング、ACS、ステロイド)

---

## 避妊カウンセリング、ソーシャルメディア、理解度、長期作動性可逆的避妊法.....11

オフィスにおける避妊のカウンセリングの際に伝統的な方法に加えソーシャルメディアを利用した場合患者の避妊に関する知識のレベルは上昇し長期作動性可逆的避妊法を好む患者は増加した。

Adjunctive Social Media for More Effective Contraceptive Counseling: A Randomized Controlled Trial  
Jason D. Kofinas, Aneasha Varrey, Katherine J. Sapra, Rula V. Kanj, Frank A. Chervenak, Tirsit Asfaw  
Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):763-770

【文献番号】 r12200 (避妊、経口避妊薬、妊娠中絶、IUD、IUS、人口問題、リスク因子、スクリーニング)

---

## 無料避妊サービス、性行動、性的リスク .....14

無料の避妊サービスへのアクセスを拡大したとしても、その後にリスクのある性行動をとるものの割合を上昇させるといふ懸念を示唆する根拠は得られなかった。

Change in Sexual Behavior With Provision of No-Cost Contraception  
Gina M. Secura, Tiffany Adams, Christina M. Buckel, QiuHong Zhao, Jeffrey F. Peipert  
Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):771-776

【文献番号】 r12200 (避妊、経口避妊薬、妊娠中絶、IUD、IUS、人口問題、リスク因子、スクリーニング)

---

## 個別的インタビュー、チェックリスト、若年女性、妊娠、避妊.....15

10代の女性および若年女性において妊娠の有無を調べる上でチェックリストは有用なツールとなる。家族計画のケア提供者がケアを求める女性と話し合ったり、また妊娠テストを行う際には適切なチェックリストを用いることによって避妊サービスに対する不要な障壁を軽減することもできる。

Using a Checklist to Assess Pregnancy in Teenagers and Young Women  
Maura K. Whiteman, Naomi K. Tepper, Melissa Kottke, Kathryn M. Curtis, Peggy Goedken, Michele G. Mandel, Polly A. Marchbanks  
Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):777-784

【文献番号】 r12200 (避妊、経口避妊薬、妊娠中絶、IUD、IUS、人口問題、リスク因子、スクリーニング)

---

## 子宮破裂、子宮離開、帝王切開、臨床結果、周産期合併症 .....17

前回子宮破裂あるいは子宮の離開を経験している患者においては、その後の妊娠において陣痛の発来前に帝王切開を行うかあるいは自然陣痛の発来の際に直ちに帝王切開を行うなどの対応によって優れた臨床結果が得られることが確認された。

Pregnancy Outcomes in Patients With Prior Uterine Rupture or Dehiscence  
Nathan S. Fox, Rachel S. Gerber, Mirella Mourad, Daniel H. Saltzman, Chad K. Klauser, Simi Gupta, Andrei Rebarber  
Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):785-789

【文献番号】 o06400 (帝王切開、合併症、VBAC、試験分娩、リスク因子、子宮破裂、子宮摘出)

---

## 子癇前症、子癇、白質損傷、後方可逆性脳症症候群、後頭頭頂浮腫 .....19

子癇前症や子癇の既往のある女性群においてはコントロール群の経産婦と比較し、白質の損傷を認める割合は高かった。いずれの例においても白質の損傷の分布は後方可逆性脳症症候群に認められる後頭頭頂浮腫の分布に相当するものは認められなかった。

Regional Distribution of Cerebral White Matter Lesions Years After Preeclampsia and Eclampsia  
Marjon J. Wiegman, Gerda G. Zeeman, Annet M. Aukes, Antoinette C. Bolte, Marijke M. Faas, Jan G. Aarnoudse, Jan C. de Groot  
Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):790-795

【文献番号】 o02200 (妊娠中毒症、妊娠高血圧、腎機能障害、胎盤剥離、子癇、リスク因子)

---

## 吸引分娩、成功率、リスク因子 .....21

生下時体重と頭部の位置が器械分娩が成功する上で最も重要な因子である。一方、機器の種類や回旋が必要となる分娩の頻度は術者によって異なる。器械分娩が不成功に終わるリスク因子は器械分娩が必要となるリスク因子とは異なっており、臨床場においてはこのような状況を混同すべきではない。

Factors Influencing the Likelihood of Instrumental Delivery Success  
Catherine E. Aiken, Abigail R. Aiken, Jeremy C. Brockelsby, James G. Scott  
Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):796-803

【文献番号】 o06300 (鉗子分娩、吸引分娩、合併症)

---

---

**重度母体疾患、発現率、分娩後出血、リスク因子 .....24**

重度の母体疾患の発現率は1,000 分娩あたり約 2.9であったが、最もよく認められる重度母体疾患が分娩後出血であった。重度母体疾患に関わるいくつかの独立した患者の要因が明かとなった。

Frequency of and Factors Associated With Severe Maternal Morbidity

William A. Grobman, Jennifer L. Bailit, Madeline Murguia Rice, Ronald J. Wapner, Uma M. Reddy, Michael W. Varner, John M. Thorp Jr, Kenneth J. Leveno, Steve N. Caritis, Jay D. Iams, Alan T. Tita, George Saade, Yoram Sorokin, Dwight J. Rouse, Sean C. Blackwell, Jorge E. Tolosa, J. Peter Van Dorsten, for the Eunice Kennedy Shriver National Institute of Child Health and Human Development (NICHD) Maternal-Fetal Medicine Units (MFMU) Network

Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):804-810

【文献番号】 o12220 (妊娠合併症、産褥合併症、偶発症)

---

**癌、リスク因子、超多産婦、卵巣癌、子宮内膜癌、乳癌、基底細胞癌、甲状腺癌.....27**

10 回以上の分娩を経験している女性においては癌の全発現頻度は低下し、とくに卵巣癌、子宮内膜癌、乳癌、基底細胞癌の頻度の低下が認められた。一方、甲状腺癌を含むいくつかの稀な癌においてリスクの上昇が認められた。

Cancer Risk in Women With 10 or More Deliveries

Emma Hognas, Antti Kauppila, Eero Pukkala, Juha S. Tapanainen

Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):811-816

【文献番号】 o12301 (産科関連事項)

---

**腔癌、ヒトパピローマウイルス (HPV)、HPVワクチン .....29**

アメリカにおいて全ての腔癌の3/4にヒトパピローマウイルス (HPV) が検知され、これは従来考えられていたよりも高い値である。腔癌の57%はHPV ワクチンで予防できるのではないと思われる。

Human Papillomavirus Genotype Prevalence in Invasive Vaginal Cancer From a Registry-Based Population

Abdulrahman K. Sinno, Mona Saraiya, Trevor D. Thompson, Brenda Y. Hernandez, Marc T. Goodman, Martin Steinau, Charles F. Lynch, Wendy Cozen, Maria Sibug Saber, Edward S. Peters, Edward J. Wilkinson, Glenn Copeland, Claudia Hopenhayn, Meg Watson, Christopher Lyu, Elizabeth R. Unger

Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):817-821

【文献番号】 g01400 (外陰腫瘍、腔腫瘍、肛門部腫瘍)

---

**尿失禁、高齢女性、抑うつ、休職、就業不能、疫学調査 .....31**

54 ~ 65 歳の一般人を対象としたコホートにおいて、尿失禁は抑うつの疑いと診断されるリスクは上昇し就業不能となるリスクとも相関した。尿失禁の診断や管理を向上させることによって経済的、心理 - 社会的なメリットが得られるのではないと思われる。

Urinary Incontinence, Depression, and Economic Outcomes in a Cohort of Women Between the Ages of 54 and 65 Years

Kristin J. Hung, Christopher S. Awtrey, Alexander C. Tsai

Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):822-827

【文献番号】 g05200 (尿失禁、合併症、膀胱症状、リスク因子、処置)

---

**GBS、ガイドライン、予防戦略 .....32**

早発型 GBS 感染の減少は現在行われている予防戦略でも可能で、特に抗生物質の予防投与法の改善をはかる必要がある。しかし、ガイドラインで勧告されている方法に完全に従ったとしても疾患の減少は比較的少ない。従って、分娩中の GBS 検査やワクチンのような新たな予防戦略が必要である。

Early-Onset Group B Streptococcal Disease in the United States: Potential for Further Reduction

Jennifer R. Verani, Nancy L. Spina, Ruth Lynfield, William Schaffner, Lee H. Harrison, Amy Holst, Stepy Thomas, Jessica M. Garcia, Karen Scherzinger, Deborah Aragon, Susan Petit, Jamie Thompson, Lauren Pasutti, Roberta Carey, Lesley McGee, Emily Weston, Stephanie J. Schrag

Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):828-837

【文献番号】 o09500 (GBS 感染、新生児脳炎、新生児感染症、黄色ブドウ球菌、新生児敗血症)

---

---

**産褥合併症、血管離開、頸動脈、椎骨動脈、血管内ステント留置、抗凝固療法、抗血小板療法.....35**

分娩後の頸部の血管の剥離は稀な合併症で長期的な神経学的な異常を予防するためには速やかな診断が必要である。個別的な対応戦略が必要であるが、抗凝固剤、抗血小板療法あるいは抗凝固療法と抗血小板療法などの内科的な治療と血管内カテーテル挿入などの治療が必要である。

Postpartum Internal Carotid and Vertebral Arterial Dissections  
Jeannie C. Kelly, Mina G. Safain, Marie Roguski, Andrea G. Edlow, Adel M. Malek  
Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):848-856

【文献番号】 o05700 (産褥異常関連事項)

---

**妊娠、産褥、精神障害、抑うつ、不安、リスク因子、肥満、過体重 .....38**

肥満女性において妊娠中と産褥期に抑うつ症状を経験する割合は正常体重の女性と比べ有意に上昇するが過体重の女性においても中等度のリスクの上昇を認めることがあり注意を払う必要がある。

Obesity and Mental Disorders During Pregnancy and Postpartum: A Systematic Review and Meta-analysis  
Emma Molyneaux, Lucilla Poston, Sarah Ashurst-Williams, Louise M. Howard  
Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):857-867

【文献番号】 o12210 (妊産婦管理、高齢妊娠、若年妊娠、肥満、糖尿病、運動、抑うつ)

---

**産褥敗血症、A群連鎖球菌、toxic shock 症候群 .....40**

世界的にみて産褥敗血症は依然として母体死亡の主要な原因の一つとなっている。Group A streptococcus (GAS) は産褥感染に伴う罹病率と死亡率の上昇との相関が認められている。連鎖球菌は子宮内膜炎、壊死性筋膜炎、連鎖球菌性 toxic shock 症候群などの浸潤性感染を引き起こす。浸潤性 GAS 感染が疑われた場合、救急輸液、抗生物質の投与、原発巣への対応などを速やかに実施する必要がある。

Puerperal Group A Streptococcal Infection: Beyond Semmelweis  
Brenna L. Anderson  
Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):874-882

【文献番号】 o01700 (妊娠、細菌性腔症、クラミジア、ヘルペス、ウイルス感染、GBS、HIV、感染症、MRSA)

---

**新生児脳症、低酸素性虚血性脳損傷、脳性麻痺 .....43**

新生児脳症の徴候と症状には軽度のものから重度のものまで多様なレベルの問題が発生する急性の分娩中の問題が関わっている新生児脳症の児を特定するための確かなマーカーは明らかになっていない分娩中に発生した急性低酸素性虚血性脳損傷が新生児脳症に関わっていることを示すには多様な要因を調べてみる必要がある新生児脳症とは妊娠 35 週以降で出産した児における分娩後早期に認められた神経機能障害と定義される。臍動脈における酸血症は pH が 7.0 未満であるか、塩基欠乏が 12mmol/L 以上である。MRI で妊娠 35 週以降で生まれた児において低酸素性虚血性脳損傷の異常を検知することができる。胎児心拍モニタリングでカテゴリ-III に進展した場合には低酸素性虚血性脳症が疑われる。新生児脳症と脳性麻痺との関連性を調べるためには総合的な評価が必要で必ずしも容易ではない。

Neonatal Encephalopathy and Neurologic Outcome, Second Edition  
Obstet Gynecol. 2014 Apr;123(4):896-901

【文献番号】 o08100 (新生児仮死、新生児痙攣、神経発達障害、脳性麻痺、新生児合併症、新生児アシドーシス)

---